

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025 年 7 月 31 日

テーマ「教育改革・分野再編の推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)経営企画部長
皿谷 敦
(経営企画部)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン		長期戦略(テーマ名)		統轄部署
1	学士課程教育	(4)	教育改革・分野再編の推進	経営企画部
内容 産業構造の変化に伴って人材需要も変化し、そのことが受験市場の動向にも影響を及ぼす。こうした出口・入口の市場の変化に応じて教育分野の再編が必要となる。特に 18 歳人口の減少で入学者の学力低下が見込まれる中で、学力の相対的に高い層の獲得が重要命題であり、長期的な視点に立って選抜性を維持するための制度上の変革が求められる。 新たな分野(学部・学科)を設ける場合も、大学全体の定員を維持(または縮小)しながら「組み替え」を原則とし、既存分野の定員を縮小して選抜性を高め、偏差値の向上に結びつける。 特に、神戸三田キャンパスでは、理工学部の規模が急速に拡大してきたこと等から総合政策学部の一部も視野に入れた分野再編に取り組む。検討に際しては、キャンパス固有の教育システムを確立して魅力を高めることを念頭に置く。 また、本学院の創立の地である神戸・原田の森でのキャンパス開設の準備が進んでいる。学際的かつ課題解決型教育を推進し、世界や社会との連携・交流を通じて、国際性や多様性への理解を身につけ、アントレプレナーシップを発揮して、よりよい社会の実現に貢献できるイノベーション人材を育成する。その実現に向けて、神戸市との協議をはじめ、教学面、施設面、産官学連携の強化、国際連携、それらを支える情報環境整備面や人事制度改革などを総合的に進めていく。 分野再編にあたっては、人材需要、受験生市場、高等教育行政等の動向を把握し、各キャンパスを見渡した学部・学科等の新設・拡張・縮小・組換えを立案する機能を確立する。 【フェーズⅡに向けた課題】 ・時代のニーズにあった新たな教育分野の開発、学部・学科の設置提案に向けた情報収集の強化 【フェーズⅡの Total Review】 ・2018 年策定当時、KSC の再編活性化へ取り組むことが確定しており、2021 年の開設に向けた入試、広報、教育システムなどを統括して戦略的に実施することで、3 年連続志願者増加という実績を得た。今後、KSC の再編活性化は、担当部署等をより明示化することで、継続して推進する。 ・産業構造や人口動態によって、人材需要も変化し、ひいては受験市場動向へ影響を及ぼすことから、絶え間なく上記環境変化の収集や時代のニーズにあった情報収集を継続実施する必要がある。 ・学部単体での改革の動きは鈍い。在学生調査結果など IR データや他大学の動向などを元とした教育改革・分野再編を、大学と協力して実施する必要がある。 【フェーズⅢに向けた課題】 ・本長期戦略テーマを、「教育分野の再編」という名称から、一段大きくして、「教育改革・分野再編の推進」と変更することで、KSC だけでなく、王子構想も含めた全キャンパスの教育改革・分野再編へ対応できるようにする。なお、KSC については、「7-(2)-②KSC のキャンパス整備」と集約し、実施計画名を一部修正する。 ・ゼミなどのアウトリーチの活動等への支援策の検討				

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025年7月31日

テーマ「教育改革・分野再編の推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)経営企画部長
皿谷 敦
(経営企画部)

指標1

指標	内容
指標名	再編による新設学部の入試難易度(偏差値)
定義・算式	非公開
現状値 (指標設定時)	
目標値	
実績値	

指標2

指標	内容					
指標名	再編による新設学部生の就職状況					
定義・算式	1) 再編学部生の就職・進路決定率 2) 再編学部生の有名 400 社比率 就職(400 社) ÷ 就職 ※就職者のうち、400 社に就職した人の割合					
現状値 (指標設定時)	—					
目標値	フェーズ1終了時(2021 年度)		フェーズ2終了時(2024 年度)		フェーズ3終了時(2027 年度)	
	今後検討(全体では 32.5%)		今後検討(全体では 34%)		今後検討(全体では 35%)	
実績値	2019 年度	—	2022 年度	—	2025 年度	
	2020 年度	—	2023 年度	—	2026 年度	
	2021 年度	—	2024 年度	1) 理: 96.8% 工: 96.5% 生: 92.6% 建: 94.0% ※全体: 92.9%	2027 年度	
				2) 理: 20.3% 工: 23.5% 生: 22.7% 建: 28.3%		

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025 年 7 月 31 日

テーマ「教育改革・分野再編の推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)経営企画部長
皿谷 敦
(経営企画部)

2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署	学部・研究科 での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① 人材需要の動向についての 情報収集・分析・予測	経営企画部	必要なし	3年間			3年間					
② 神戸三田キャンパス(KSC) の再編・競争力強化	学長室・ KSC 事務局	必要なし	3年間			3年間			3年間		
③ 西宮上ヶ原キャンパス (NUC)の再編・競争力強化	学長室・経 営企画部	必要なし							3年間		
④ 西宮聖和キャンパス(NSC) の再編・競争力強化	学長室・経 営企画部	必要なし							3年間		
⑤ 王子キャンパスの開設準備	神戸C開設 準備室	必要なし							3年間		
⑥ 学部教育改革施策	学長室(大 学企画課)	必要⇒【選択 型】(学部・研 究科が任意 で取組みを 選択)	3年間			3年間			3年間		
⑦											
【備考欄】											

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計(2019 年度～2027 年度)

◆フェーズⅠ: 2019 年度～2021 年度

費用計画・人員計画 (単位: 万円)	2019 年度	2020 年度	2021 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

◆フェーズⅡ: 2022 年度～2024 年度

費用計画・人員計画 (単位: 万円)	2022 年度	2023 年度	2024 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

◆フェーズⅢ: 2025 年度～2027 年度

費用計画・人員計画 (単位: 万円)	2025 年度	2026 年度	2027 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2025 年 7 月 31 日

テーマ「教育改革・分野再編の推進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)経営企画部長
皿谷 敦
(経営企画部)

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019 年度	2021 年 4 月より KSC を 2 学部体制から 5 学部体制に改組することに伴い、大学評議会の下に「KSC 再編活性化委員会」を設け、大学主導にて設置申請・広報活動等を進めた。開設まで継続的に受験生確保等入試広報活動を行う必要がある。
2020 年度	KSC 再編活性化委員会の下、入試広報施策を実施し、受験者数昨年比 1.44 倍の成果を得た。また、新人教員着任準備や同研究室設置工事、KSC「合同」事務室の実施等に取り組んだ。引き続き、「受験生確保」に向けた各種入試広報施策に取り組むことに加え、新棟建設にあわせて、Sustainable Energy 一大拠点等支援を行う必要がある。
2021 年度	KSC 戦略推進本部の下、YouTuber 等を活用した入試広報施策を展開して、受験者数は昨年比 1.13 倍で 2 年連続での増加という成果を得た。また、分野横断型教育プログラム活性化のための学生の意識醸成イベントを実施に加え、「SPring-8 ビームラインを活用した PBL 授業」も開講された。今後は、KSCⅧ号館の供用開始にあわせて、天体望遠鏡を使った公開イベントや Sustainable Energy 一大拠点、分野横断型教育プログラム等の KSC の特長をさらに発展させるための支援を行う。
2022 年度	KSC 戦略推進本部の下、YouTuber やイメージ広報「まだ見ぬ世界へ」等を活用した入試広報施策を展開して、受験者数は昨年比 1.13 倍で 3 年連続増加という成果を得た。また、KSC の特長の 1 つである分野横断型教育プログラムの活性化に向けたイベントを実施するとともに、「SPring-8 ビームラインを活用した PBL 授業」も開講している。
2023 年度	KSC 戦略推進本部の下で、KSC 活性化プロモーションとして、受験生向け DM、教育系 YouTuber を通じたインフルエンサータイアップ、そして小惑星探査機「はやぶさ2」の実物大模型展示企画「タッチダウン to 関西学院大学」を複合的に展開し、KSC の特徴的な教育・研究の広報により、受験者数は 17,328 人(前年比 108%)で 4 年連続の増加(再編前の 2020 年度比 198%)となった。今後は、理工学研究科の拡充や KSC Co-Creation Village【C-ビレッジ】の開設の情報発信を強化させつつ、KSC における教育・研究の魅力向上を訴求させる必要がある。
2024 年度	KSC 活性化プロモーションとして、前年度に引き続き受験生向け DM の発信、教育系 YouTuber とのタイアップ企画、「地球を科学(サイエンス)する」をテーマにしたイベント実施などを通じて、KSC4 つの特徴や研究に関する広報を展開した。KSC の合計志願者数は 18,704 人(前年比 108%)で 5 年連続の増加(2020 年度比 214%)となった。しかしながら、国公立志望層から第一併願先として選ばれる理系のポジション獲得を目指して、2025 年 4 月からの理工学研究科博士課程前期課程の再編・拡充を活気づけ、教育・研究に関する他の計画と連携させ、大学院進学希望者が集まる理系キャンパスのイメージの訴求への注力が必要。また、2025 年度より「学部教育改革施策」が移行されてくことに伴い、各学部の教育プログラムに対する、厳格な成果検証方法を定めておく必要がある。
2025 年度	
2026 年度	
2027 年度	